

第1285回 高知市教育委員会 8月臨時会 議事録

1 開催日 令和5年8月4日(金)

2 教育長開会宣言

3 議事

日程第1 会議録署名委員の指名について

日程第2 市教委第28号 令和6年度使用高知地区小・義務教育学校教科用図書（学校教育法附則第9条の規定に基づく一般図書を除く）採択について  
（継続審議）

4 出席者

(1) 教育委員会	1 番教育長	松 下 整
	2 番委員	谷 智 子
	3 番委員	西 森 やよい
	4 番委員	野 並 誠 二
	5 番委員	森 田 美 佐
(2) 事務局	教育次長	山 中 浩 介
	教育次長	植 田 浩 二
	教育政策課長	岸 田 正 法
	学校教育課長	竹 内 清 貴
	教育政策課長補佐	神 岡 純 子
	学校教育課学校教育班長	入 江 洋
	学校教育課指導主事	馬 詰 敦
	学校教育課指導主事	渡 邊 拓 哉
	学校教育課指導主事	木 村 大 作
	教育政策課総務担当係長	栗 本 佳 美
教育政策課主査補	四 國 真 衣	

1 令和5年8月4日(金) 午後3時15分～午後5時45分(たかじょう庁舎5階北会議室)

2 議事内容

開会 午後3時15分

**松下教育長**

ただいまから、第1285回高知市教育委員会8月臨時会を開会いたします。

日程第1, 会議録署名委員の指名を行います。

会議録署名委員は、森田委員、お願いいたします。

**森田委員**

はい。

**松下教育長**

それでは、議案審査に移ります。

本日の議案は1件です。

日程第2 市教委第28号「令和6年度使用高知地区小・義務教育学校教科用図書(学校教育法附則第9条の規定に基づく一般図書を除く)採択について」の継続審議に入りたいと思います。この案件は、8月末までの間、時限秘の内容となっておりますので、前回の7月定例会での審議と同様に「秘密会」といたします。

なお、採決については、種目ごとに順次審議し、決定していくこととしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

**委員一同**

————— 【異議なし】 —————

**松下教育長**

それでは、まず国語について、説明をお願いします。

**学校教育課指導主事**

まず国語ですが、3社のうち、東京書籍、教育出版、光村図書出版の3社が選定されております。青色の付箋がついたページをお開きください。「もくじ」についてでございます。3社とも3年生上の2ページとなっております。3社とも1年間の学習を見通すことができるようにまとめられております。加えて、読む、話す、聞く、書くといった「各領域とのつながり」を明記しております。光村図書出版をご覧くださいと、その領域で学習する内容を次のページでまとめております。東京書籍の6ページ以降をご覧くださいと、国語学習の進め方の説明に加え、見開きの6・7ページでは、「言葉の力」の要点を示しております。

続きまして、黄色の付箋のページをご覧ください。「物語文：大造じいさんとがん」についてでございます。(東京書籍5年180ページ、教育出版5年上90ページ、光村図書出版5年228ページ)

東京書籍は、主人公の様子は分かって、表情が分からず、文章から創造力を広げながら、読解学習を進める挿絵となっております。一方、教育出版と光村図書出版をご覧ください。これらは一般的な挿絵でございまして、場合によっては、主人公の表情から心情を想像しやすいものとなっております。

国語についての説明は以上になります。

**松下教育長**

この件に関して、質疑等はありませんか。

**西森委員**

今ご説明いただいたところですが、現在、国語はどの出版社を使っていますか。

**学校教育課指導主事**

現行は東京書籍でございます。

**西森委員**

はい。それによって、選定にどの程度の影響を及ぼすかというのは事案によると思いますが、やはりどの科目も、現在どれを使っているかということは関心あるところですので、この後のご説明ではどこを使っているかという現行をご説明いただければと思います。

**学校教育課指導主事**

承知いたしました。

**西森委員**

はい。よろしく願いいたします。

**松下教育長**

ほかにありましたらお願いします。

**森田委員**

「大造じいさんとがん」は、あえて挿絵に表情が見えないようになっているということでしたが、先生方の評判といたしますか、そういうことが良いというご見解ですか。

**学校教育課指導主事**

そうですね。表情を想像しながら、物語を読み進めていくことができますので。

**森田委員**

そういう評価をいただいているということですか。

**学校教育課指導主事**

はい。

**森田委員**

ありがとうございます。

**谷委員**

国語のノートの作り方は、それぞれ違いはありますか。

**学校教育課指導主事**

国語のノートの作り方については、国語に限ったことではなく、各教科で非常に大切になってくると思いますが、それぞれ各社にノート作りについてのコーナーはありますが、特に、東京書籍については、詳しく、全学年の実態に応じた形で、こういったノートを作ってくださいということで手厚く載っていると思います。

**谷委員**

はい。分かりました。

**野並委員**

各社のQRコードが記載されていますが、違いはありますか。

**学校教育課指導主事**

はい。各社それぞれにQRコードがありますが、東京書籍は、QRコードを読み込むことによって、デジタルノートというものが活用できるように工夫されています。

**野並委員**

ありがとうございます。

**学校教育課指導主事**

デジタルノートは、読み込みますと付箋のようなものが出てきまして、そちらに自分の意見を書き込んでいきます。そして、それを保存することができますので、また引き続き学習で使えるようになっています。

## 西森委員

国語に関しては、各社とも適切な量の読み物を選んでいて、それぞれ工夫されていて、甲乙つけがたいなと思いながら拝見しています。ただ、東京書籍に関して言うと、緑と黄緑のキャラクターと、本の上に乗っている葉っぱの形をしたこのキャラクターに統一感があって、ページをめくっているとパッと目を引くような形で工夫されているという印象があります。どの教科書もたくさんの情報を持っているので、そうなる、見せ方の問題になってくると思います。どれもそれぞれ工夫されているという気はしますが、東京書籍のこのような見せ方というのは、そこに目が行くようにできているのかなと感じました。6年生の5ページ目のこの緑のキャラクターが「ことは」、オレンジのキャラクターは「はてな」という名前ようですが、そうやって目で追ってだけで、何となく教科書のストーリーが読めるような気がします。

## 谷委員

「大造じいさんとがん」について、各社それぞれに工夫を凝らしていると思いますが、一般的な挿絵でいろいろなことを判断するというよりも、やはり国語なので、文章の行間を読みながら、文章で想像力を広げていくということの力を身につけることが大事だとしたら、東京書籍程度の挿絵の量の方が、子供にとっては効果的ではないかと思います。

## 森田委員

私は、教科書の最後にどなたが書かれているかというところに着目をしました。そうすると、どこの教科書も、有名な方がたくさんいらっしゃいますが、関わっておられる方自体の母集団は東京書籍が一番多いのではないかというふうに見ました。やはり、たくさん人がいればいるほど、まとめていくのはとても大変ですが、あえて、たくさんの方の参画していただくというのは、質にも影響するのかなと思いました。私は東京書籍が一番関わっておられる方が多いということもあって、期待したというところがあります。

## 松下教育長

ありがとうございます。ほかにありますか。

委員の皆様のお話を伺った中で、国語については、東京書籍株式会社の内容が優れているという意見が多かったように思います。

国語については、東京書籍株式会社で決定してよろしいでしょうか。

## 委員一同

————— 【異議なし】 —————

## 松下教育長

では続きまして、書写に移りたいと思います。事務局の説明をお願いします。

## 学校教育課指導主事

続いて、書写です。書写は、3社のうち、東京書籍、教育出版、光村図書出版の3社が選定されております。

青色の付箋がついたページをお開きください。1年生の冒頭部分になります。「字を書く姿勢と鉛筆の持ち方」についてでございます。(東京書籍1年2ページ、教育出版1年4ページ、光村図書出版1年6ページ)

3社とも、字を書く姿勢や執筆法について、イラストや写真を用いて楽しく分かりやすく提示しております。中でも、東京書籍の4・5ページを見ていただきますと、左利きを含む鉛筆の持ち方が見開き2ページの原寸大で分かりやすく取り上げられております。

次に、黄色の付箋のページをお開きください。「点画の種類と筆使い」についてでございます。4年生のものになります。(東京書籍4年8ページ、教育出版4年12ページ、光村図書出版4年6ページ)

まず、東京書籍、教育出版をご覧くださいますと、運筆を「とん」「すう」「びたっ」といった擬態語を使って言語化してイメージを表現するなど、分かりやすい説明となっており、特に東京書籍

では、その関連ページも記載しているため、振り返り学習にも、活用しやすくなっております。次に、光村図書出版をご覧くださいますと、筆圧を1～3の数字で表現しております。

なお、現行は東京書籍です。説明は以上です。

#### 森田委員

確認ですが、東京書籍で青い付箋をいただいたところの次の4ページの「書きやすい持ち方」について、左手の持ち方もありますと説明いただきましたが、これは他社にはないオリジナルということでしょうか。

#### 学校教育課指導主事

他社にもありますが、それぐらい見開きで大きく掲載されているのは東京書籍です。

#### 森田委員

それが見やすく掲載されているということですね。

#### 学校教育課指導主事

はい。

#### 森田委員

ありがとうございます。

#### 谷委員

黄色の付箋のところ、4年生の東京書籍の8ページにある青の長い枠の中に、「これまでに学習した点画の名前を書こう」とありますが、どういう意味ですか。

#### 野並委員

これですよ。

#### 松下教育長

右払いとか。

#### 野並委員

そうです。左払いとか。

#### 谷委員

それをここに書くということですか。

#### 学校教育課指導主事

42ページにある「書写のかぎ」というページに、点画の書き方等が掲載されており、子供達が書き方を復習しながら、こちらに点画の名前を書き込んでいくというような形になります。

#### 松下教育長

折れや曲がりというような。

#### 谷委員

そういうことは、書写なので案外大事なこともかもしれませんね。

それから、先ほど話があった姿勢についてですが、3社を比べたときに、それぞれ工夫はされていますが、やはり1年生にとって、見た目に分かりやすいことがすごく大事になってくると思うので、分かりやすい形で書いてくれた方がいいですね。例えば、「背中はピン」、「足はペタ」、「トンと押さえる」といったように、1年生って案外そういうことで身に付く面はありますよね。そういう意味では、東京書籍が分かりやすいと思います。

#### 西森委員

東京書籍の4年、5年、6年の書写の教科書を見ていて、1番後ろの背表紙をめくったところに、「文字に込めた思い」というページがあります。斬新だなと思いました。書写というのは、綺麗な字が書けることが大事だと思っていましたが、そうではなくて、書いて伝えるという意味では、必ずしも美しく整った字ではなくてもいいというような印象を受けました。

もう一つは、光村図書出版の5年生の12ページに石巻日日新聞が出版できなかった時に手書きで書かれたものがあります。普通はもっと綺麗に書かれていると思います。今までの書写の教科書

で推奨されてきた字ではないと思いますが、書くってどういうことか、人に伝えるってどういうことかということを取り上げてくれることが、習っている側からすると、字が下手だったら出る幕がないというのではなくて、一生懸命書いて伝えることが大事だ、というようなメッセージをもらえる感じがして非常にいいなと思っています。光村図書出版ではそういう形の取り上げ方ですが、東京書籍は4年、5年、6年全部の教科書の背表紙で、いろいろな思いを込めて書いているということを取り上げているので、一人一人が自信を持って文字を書けるようになるのではないかと思います。

#### 松下教育長

よろしいでしょうか。

それでは、皆様のお話を伺った中で、書写については、東京書籍株式会社の内容が優れているとご意見をいただきました。

書写については、東京書籍株式会社で決定してよろしいでしょうか。

#### 委員一同

————— 【異議なし】 —————

#### 松下教育長

続きまして、社会に移りたいと思います。事務局の説明をお願いします。

#### 学校教育課指導主事

続いて、社会です。社会は、3社のうち、東京書籍、教育出版、日本文教出版の3社全てが選定されております。

青色の付箋がついたページをお開きください。「戦時中の子供たちの生活について」でございます。6年生のものです。(東京書籍6年歴史編134ページ、教育出版6年212ページ、日本文教出版6年205ページ)

東京書籍をご覧くださいますと、写真や表など、児童の思考を促すように資料が精選されており、太文字など、本文が効果的に配置されております。次に、教育出版をご覧くださいますと、中心資料となる写真や「どんぐりと戦争」といった資料を、できる限り大きく取り扱い、児童の意欲や興味を高めるような工夫とともに、児童の思考を促す資料やコーナー等が、効果的にバランスよく配置されております。また、白黒写真をカラー写真で掲載するなどの工夫も見られます。

次に、黄色の付箋のページをお開きください。「情報社会と暮らし」についてでございます。5年生の教科書になります。(東京書籍5年下80ページ、教育出版5年198ページ、日本文教出版5年194ページ)

まず、東京書籍や日本文教出版をご覧くださいますと、情報の便利さや課題を示し、児童に「情報を生かす方法」と、そのための「情報ルール」について考えさせる構成となっております。教育出版ですが、情報流出といった「情報社会の問題」を取り扱うとともに、子供たちに、情報通信技術を生かす方法やその際の課題や解決法を考えさせる構成となっております。

なお、現行は教育出版です。説明は以上です。

#### 谷委員

6年生の歴史分野のところでは、それぞれの教科書で、教育出版だけがカラー写真を使用していますよね。ほかの出版社は、ほとんど白黒写真ということですか。

#### 学校教育課指導主事

はい。

#### 谷委員

そういうことですね。子供たちにとって白黒写真は、自分とは関係のない大昔の話と捉えがちなので、カラー写真を使用することで、自分のこととして、すごく身近なものとして捉えやすく考えやすいと思うので、カラー化したということはすごく良いと思います。

それともう一つ伺いたいのが、三つの出版社の教科書の中で高知県を取り上げたページは何ページにありますか。

**学校教育課指導主事**

教育出版の5年生の107ページに「海沿いに広がるなす畑」や、226ページから数ページにわたって土佐町の「森林のはたらきやその大切さ」が出てきています。

**谷委員**

何ページもありますか。

**学校教育課指導主事**

231ページまであります。

**谷委員**

それはすごいですね。高知は森林県なので、そういうところを取り上げてくれると、子供たちが身近に学習ができますね。

**学校教育課指導主事**

それから、日本文教出版の5年生の248ページに、黒潮町の避難タワーが出てきています。

**谷委員**

大事なところを押さえて写真を載せてくれていますね。日本文教出版も載せてくれています。全体的に見ると、やはり教育出版がカラー化のこともあり、高知県の取り上げ方とかも良いですね。

**学校教育課指導主事**

東京書籍は5年生の上70ページに、梶原町の棚田での田植えの様子が載っています。

**谷委員**

いろいろな四つの県が出ている中の一つですね。

**西森委員**

私も教育出版で良いと思うところがあって、左側のページに、「つかむ・調べる・まとめる」というものが、リズム感良く出てきています。今自分が見ているページが「つかむ・調べる・まとめる」のどれになるのかということが、教科書の構成全体が3年生から全部、系統がしっかりしているように見えます。

つかむ、調べるというところは、東京書籍もやっていますが、めくっていくと、調べるページ、まとめるページということが分かり、広げるページもあるみたいですね。ただ、横を見てパラパラとめくって分かるということでもなく、1回中に入り込まないと分からない部分がありますので、教育出版の整理の仕方が上手だという印象を受けております。以上です。

**谷委員**

6年生の最初は憲法学習から始まります。教育出版の6年生では、いきなり憲法から入るのではなく、パラリンピックから入っています。パラリンピックについて、オリンピック憲章に示された、人間の尊さ、人権差別を受けることなくという原則から入っていき、憲法につながっていくというこの入り方は、子供側から考えてすごく良いと思います。日本文教出版は、そのまま憲法から始まっていて、東京書籍は、身の回りにある政治と政治の役割という一般的なところから入っていますが、この教育出版の始まりがパラリンピックというところは、非常にインパクトが強いと思います。

**松下教育長**

よろしいでしょうか。

それでは、社会につきましては、皆様のご意見の中で、教育出版株式会社の内容が優れているのではないかとご意見をいただきました。社会につきましては、教育出版株式会社で決定してよろしいでしょうか。

**委員一同**

————— 【異議なし】 —————

## 松下教育長

続きまして、地図に移りたいと思います。事務局の説明をお願いします。

### 学校教育課指導主事

続いて、地図です。地図は、東京書籍、帝国書院の2社のみとなっており、この2社ともが選定されております。地図は1冊のみで、児童はこの教科書を4年間使用いたします。

次に、黄色の付箋のページをお開きください。「京都市中心部」についてでございます。(東京書籍33ページ、帝国書院54ページ)

東京書籍をご覧くださいますと、イラストを用いて、京都市中心部の様子が分かりやすい紙面となっております。次に、帝国書院をご覧くださいますと、こちらも京都市中心部の様子がイラストを用いて分かりやすく提示されております。また、地図と併せまして、左下にあります「空から見た京都市中心部」の写真をご覧くださいますと、京都市の基盤の目の様子がとてもよく分かるようになっております。

次に、ピンク色の付箋のページをお開きください。まず、東京書籍(77ページ)でございますが、日本の歴史と世界との関わりのあるページがあり、日本の歴史を学びながら、同じ時代の世界の様子を捉えられるようになっております。帝国書院(124ページ)についてでございますが、資料を活用し、主体的な学びの力を伸ばすための工夫としまして、「地図マスターへの道」を設け、深い学びにつながる構成となっております。

なお、現行は帝国書院です。説明は以上です。

### 西森委員

帝国書院の109ページに「日本の歴史」というページが見開きであります。こういった旧の国名がどこかということは、東京書籍にありましたか。東京書籍のピンクの付箋のところで、日本だけを抜粋した同じような年表が、世界と結びつけた書き方をしているのはいいと思います。日本の歴史でこの国名とリンクしているものはありましたか。

常々思っているのが、歴史の勉強をしても、正直どこのことかがよく分かっていないことが私はあったので、こういう地図を意識しながら歴史を学ぶということは結構大事なことではないかと思っています。なので、帝国書院の109ページは、なかなかいいのではないかと思います。ただ、国の境は明治元年の国の境で、戦国時代とか全部ずれたり、いろいろ変わるんですよね。ですが、大まかにここかというイメージは結構大事だと思っていますので、こういうページがある帝国書院に好感を持っています。東京書籍にあれば、一度そこも触れたいと思いましたが、見つけてくださった方いらっしゃいますか。ないですか。はい。分かりました。ありがとうございます。

### 森田委員

黄色の付箋のページについて、帝国書院は空から見た写真もあるということでした。地図を見るときに、地図と空から見た写真の両方を見ることができるところを評価できるのではないかと考えました。それから、帝国書院のピンクの付箋の最後のページについて、今どきの子供たちは、挑戦しようというように楽しく勉強できるのではないかと考えました。ここに関して先生たちの評判とかあるのでしょうか。

### 学校教育課指導主事

何よりもやはり子供たちがゲーム性があるということで、楽しく地図を見ながら学習するということがあります。

### 森田委員

ありがとうございます。

### 谷委員

先ほど説明のあった帝国書院の54ページと、東京書籍の33ページについて、京都市中心部を見比べたときに、東京書籍は見えにくいですね。帝国書院が見やすいと思いました。もう一つが、帝国書院の41・42ページと、東京書籍の27・28ページを見比べると違います。ごちゃごちゃして



いて見えにくいです。帝国書院が見やすいです。3年生からずっと使っていくわけなので、扱いやすく見やすい教科書が子供にとってはいいのではないかと思います。

**松下教育長**

違いは色合いですかね。

**野並委員**

明るいですね。

**松下教育長**

一言では言えないですが、パッと見て分かるような工夫なんでしょうね。

**谷委員**

東京書籍はごちゃごちゃしています。

**西森委員**

地図研究する人は好きかもしれませんね。

**松下教育長**

そうですね。

**谷委員**

そうですね。小学校3年生から使う教科書ですから、私は帝国書院が絶対いいと思います。

**松下教育長**

やはり見せるための色合いが、プロの技ですよ。

**谷委員**

学習意欲も高めますよね。

**西森委員**

帝国書院の31・32ページにある「日本の領土とその周り」について、東京書籍の15・16ページにも同じようなページがあります。見せ方の問題になりますが、帝国書院は全部囲ってあって、名前を聞いたことのあるここはビジュアル的にはこうなんだと一覧で把握できるようになっているので、ありがたいなと思います。東京書籍は、竹島や尖閣諸島などが別のページに写真が飛ぶようになっていまして、それはそれで見ることはできますが、一覧で把握ができるという点では帝国書院が分かりやすいと思いました。

**松下教育長**

よろしいでしょうか。

それでは、地図につきましては、皆様のご意見の中で、株式会社帝国書院の内容が優れているというご意見が多かったように思います。

地図につきましては、株式会社帝国書院で決定してよろしいでしょうか。

**委員一同**

————— 【異議なし】 —————

**松下教育長**

続きまして、算数に移りたいと思います。事務局の説明をお願いします。

**学校教育課指導主事**

続いて、算数です。算数は、6社のうち、東京書籍、学校図書、教育出版の3社が選定されています。

まず、青色の付箋のページをお開きください。1年生の教科書になります。「なんばんめ」の単元についてでございます。(東京書籍1年①34ページ、学校図書1年上32ページ、教育出版1年25ページ)

3社とも可愛いイラストを用いて、子供たちが意欲的に学習に取り組めるよう工夫がされています。東京書籍と教育出版をご覧くださいますと、まずは「前から何番目」「後ろから何番目」という問いから始まり、次に上下、そして左右から何番目というように、発展的な内容構成となっ

ております。また、東京書籍につきましては、紙面が大きく、子供たちが書いたり消したりすることを前提とした紙質となっております。

次に、黄色の付箋のページをお開きください。4年生上になります。「算数の学び方」についてでございます。(東京書籍4年上3ページ, 学校図書4年上2ページ, 教育出版4年上2ページ)

東京書籍をご覧くださいますと、全学年の学習の導入に、「学びのとびら」を設け、問題解決の過程における大切な視点や、ノートづくりについて、実際の授業を通して学ぶことができる構成となっております。次に、学校図書につきましては、ある単元を例にして、教科書に出てくるマーク等の解説と学習の進め方を示しております。次に、教育出版をご覧くださいますと、学習の進め方がよく分かるように「みんなで算数をはじめよう」を設け、「はてな」「なるほど」「だったら」をキーワードに学習を進めていくことが示されております。

なお、現行は東京書籍でございます。説明は以上です。

#### **森田委員**

学校図書の教科書は、美味しそうなものがたくさんあって、そういう意味で興味がありますが、東京書籍の教科書は、見た目が大きく親しみやすく絵本のように分かりやすいので、これから算数を勉強する1年生にとって、教科書で勉強するという敷居が低くなって入りやすく良いと思いました。

#### **野並委員**

私も同じ意見です。1年生の一番最初の第一歩のところで入りやすいように、別冊を作るという工夫が非常に良いと思いました。

#### **谷委員**

私も同じ意見です。「なんばんめ」の単元を3社で比較しました。やはり、1年生の最初は「前から何番目」を区別することがすごく難しいです。それから、「左から何番目」というような左右前後の感覚を最初の段階で持たせるためには、教育出版もすごく工夫をしていますが、カバが何番目にいるというような並んでいる絵が見えにくいと思いました。東京書籍は、1番目はこれだということが、絵もすごく分かりやすく、番号も付いて見やすくなっています。1年生の実態に応じた教材になっていてとても良いと思います。

#### **西森委員**

私は6年生の教科書に興味を持って見ていました。面白いと思ったところが、東京書籍の220ページの算数卒業旅行というところです。中学校にどうつなげるかというところで、学校図書は別冊を作っていますが、東京書籍は同じ教科書の中にあるので、一つではなく四つのコースがあるので、この中で好きなコースを選んでみてねという形で誘導してくれて、どれかには興味を持つことができるかなと思いました。その後ろには、算数の世界が広がるような面白いお話が書かれているので、良いと感じています。それから、同じく東京書籍で、他社もあるのかもしれませんが、例えば24ページに、和暦西暦を照合させるというようなものがあります。こういうことも、日頃無意識にやっていることですが、関係性を式で表示するというようなことがきちんと日常生活の延長として描かれているので、良いと思いました。それから、他社の教科書にもあるかもしれませんが、142ページには、ドームの面積の求め方など綺麗ではない形をどうやって求めるのかということが、隣に書かれています。144ページには、ランドセルのおよその容積、牛乳パックやケーキなど、問題提起が綺麗にされていると感じました。例えば、学校図書では、問題提起をした後すぐに回答が書かれていて、考えるより先に解き方があるので、間がない感じがして、東京書籍の間の取り方が私は良いかなと感じました。以上です。

#### **谷委員**

学校図書の教科書の表紙が、イクラとかあって美味しそうではありますが、意図が分かりにくいですね。

#### 松下教育長

ケーキの上にイチゴがいくつ乗っているかなど数字を意識させるということでしょうか。

#### 森田委員

3年生と4年生の裏表紙を見ましたが、実は折り紙があります。教科書の表紙はすごく大事で、何を伝えたいかということですよ。

#### 谷委員

すごく大事ですね。

#### 森田委員

折り紙は角度や三角形の分野につながり、ケーキはグラムを測る分野につながります。数学が生活の中にもあるということ伝えたいという気合を表紙から感じました。

#### 松下教育長

よろしいでしょうか。

それでは、算数につきましては、どの教科書も良いところがあったと思いますが、皆様のお話の中で、東京書籍株式会社の内容が優れているというご意見が多かったように思います。

算数につきましては、東京書籍株式会社で決定してよろしいでしょうか。

#### 委員一同

————— 【異議なし】 —————

#### 松下教育長

続きまして、理科に移りたいと思います。事務局の説明をお願いします。

#### 学校教育課指導主事

続いて、理科です。理科は、5社のうち、東京書籍、大日本図書、教育出版の3社が選定されております。

青色の付箋がついたページをお開きください。3年生になります。「チョウの育ち方」についてでございます。(東京書籍3年22ページ、大日本図書3年26ページ、教育出版3年34ページ)

3社とも、拡大した実物大の写真や挿絵等、児童の興味を引く工夫がなされております。大日本図書をご覧くださいますと、生き物の成長過程や変化の様子が分かりやすく、連続写真や観察カードの記入例等が見開きで大きく配置されているといった、児童が興味関心を持つような工夫がなされております。

次に、黄色の付箋のページをお開きください。5年生です。「自由研究」についてでございます。(東京書籍5年50ページ、大日本図書5年62ページ、教育出版5年74ページ)

3社ともに、研究の進め方を段階でまとめ、いくつかの例を取り上げながら説明する構成となっております。大日本図書をご覧くださいますと、レポート作成に至るまでの、問題解決の過程を6段階に分け、具体的に例を示しながら説明するなど、大変分かりやすく記述されております。なお、ほかの2社は5段階で課程を分けています。

なお、現行は大日本図書です。説明は以上です。

#### 松下教育長

自由研究の「研究の仕方」のところ、大日本図書の6段階とほかの2社の5段階の違いは、大日本図書に「準備をしよう」が入っているところですか。他社は「準備をしよう」がなく、テーマ決め、計画、調べる、まとめる、発表しようであるのに対して、大日本図書は研究を進めるに当たって一つ多く「準備をしよう」が入っています。

#### 谷委員

理科は、自由研究がすごく重要です。自分で決めたテーマの計画を立てて、今話にもありましたが、準備をするということは、プログラミングの中の一つであって、どう段取りをつけていくかという重要性、そして、調べて作ってまとめて発表するということが一目で分かりやすくまとめられ

ている教科書が大日本図書ですね。他社については、少し分りにくいかないかなという気がします。大日本図書は良いと思います。

#### 森田委員

先ほど谷先生がおっしゃった自由研究ですが、大日本図書は「まとめよう」というページが手書きで載っています。これぐらいだとやってみようという気になります。一方で、東京書籍の51ページは、ぎっしり書かれているのでできる気がしないと思う子もいると思います。「こうやってまとめればいいんだ」と思えるような、動機、予想、方法、結果、考察、結論と簡潔にポイントを押さえて手書きでカジュアルな形にまとめていると、やりやすいかなと思います。もちろん、東京書籍の「雨雲はどこからやってくるか」や、表紙についてもメッセージ性があるところは評価できると思います。

#### 谷委員

東京書籍の表紙が、見たことないような表紙ですごいと思います。

#### 野並委員

人体に関わるところで、教育出版の6年生がリアルなイラストを使っているのが面白いですね。それぞれの臓器の役割や関わりについては、大日本図書がしっかり書かれて優れているように思いました。

#### 松下教育長

最初にあったモンシロチョウのところは、説明であったとおりに一目見て分かりますね。

#### 谷委員

見開きで見て分かるということが良いですね。それから、写真がすごく綺麗ですね。

#### 松下教育長

よろしいでしょうか。

どれもたくさんいいところがあってご意見いただいたのですが、大日本図書株式会社の内容が優れているというご意見が多かったように思います。

理科につきましては、大日本図書株式会社で決定してよろしいでしょうか。

#### 委員一同

————— 【異議なし】 —————

#### 松下教育長

続きまして、生活に移りたいと思います。事務局の説明をお願いします。

#### 学校教育課指導主事

続いて、生活です。生活は、7社のうち、東京書籍、大日本図書、教育出版の3社が選定されております。

まず黄色の付箋のページをご覧ください。上巻です。「朝顔の栽培」についてでございます。(東京書籍上26ページ、大日本図書上34ページ、教育出版上24ページ)

各社ご覧いただきますと、実際に子供たちが体験したり、表現したりする学習活動が充実しており、体験や、気付きの質を高める構成となっております。特に、東京書籍は写真の使い方がダイナミックであり、また32ページをご覧いただきますと、植物の種・子葉・つぼみを同時に確認できる工夫がなされているなど、子供の意欲や関心を高めることにつながっています。

続きまして、緑色の付箋のページをお開きください。下巻になります。「町探検のまとめ」についてでございます。(東京書籍下80ページ、大日本図書下74ページ、教育出版下30ページ)

東京書籍をご覧いただきますと、まず、誰に伝えたいかを子供たちに考えさせる場面から始まり、その後の学習の流れは、3年生以降の社会科などにつながる学びを意識し、活動の質が発達の特性に応じて高まっていくよう構成されています。次に、大日本図書と教育出版をご覧いただきますと、町探検を通して学んだことを友達や町の人に伝えるための手立てが、丁寧に具体例を提示しながら分かりやすく示されております。

なお、現行は東京書籍です。説明は以上です。

#### 森田委員

黄色の付箋が貼られているところで、各社それぞれ特徴をいかして作っておられると思いますが、東京書籍にはそれぞれの種まで実物大を見せています。朝顔やヒマワリなどの芽が、それぞれどう違うかとかいうことも、具体的に書かれています。一方で、他社の教科書を見ると、にっこり笑っている児童の顔もありますが、意欲的に植えてみようかなとなるのは、種や芽までそれぞれ見せている教科書が楽しいのではないかなと、黄色の付箋が貼られているところだけ比較すると感じました。

#### 松下教育長

種があって、双葉があって、花があってという成長が見えるということですね。

#### 森田委員

やってみようというやる気が起きやすいと感じました。

#### 野並委員

全体を見ていて、東京書籍が写真の使い方が上手だと感じました。走り出した写真といった、生き生きとした動きのある写真が多く、イラストとの兼ね合わせもすごく良いと思いました。活動しているというか、そのようなアピールが上手な気がしました。

#### 谷委員

教育出版の生活、下巻の35ページを見ると、皿鉢料理が出ています。「私の町の自慢」というところです。皿鉢と言えば高知ですから、高知を取り上げてくれていると思いました。

生活科というのが、基本リアルさがないといけません。子供たちが、生活の中で、すごく頑張っているんだなという町の人に実際に会ったりするような体験が、生活科にとっては非常に重要です。そういう意味から言うと、東京書籍の写真の取り上げ方が、実際に自分自身も町に行って探検してみたい、こういう人を自分も見つきたいという気持ちになると感じますので、やはり写真がすごく重要だと思います。よく捉えていると感じましたので、東京書籍は良いと思います。

#### 西森委員

リアルつながりと言いますと、多様性を意識されるようになってきていると感じました。子供たちが一緒に活動するときには、障がいあるいは人種といったものを全部一緒に生活していこうというような形の捉え方がされていると思いますが、東京書籍は、表紙の写真も中の写真も、子供たちがいろいろな形で混ざり合っている写真が使われているという印象があり、やはりすごくリアルです。大日本図書も、ナビゲーターとして、いろいろな人種の女の子や男の子のイラストを使っているのですが、意識をしていると感じますが、やはり写真を比較すると、あまりそこまでやりきっていないと感じました。教育出版に関しては、車椅子とお子さんとかが入っているのではないことはないですが、多様性の押し出し方が少し弱いような印象を持ちました。

#### 松下教育長

よろしいでしょうか。

それでは、生活につきましては、皆様のご意見の中で、東京書籍株式会社の内容が優れているというご意見が多かったように思います。

生活につきましては、東京書籍株式会社で決定してよろしいでしょうか。

#### 委員一同

————— 【異議なし】 —————

#### 松下教育長

続きまして、音楽に移りたいと思います。事務局の説明をお願いします。

#### 学校教育課指導主事

続いて、音楽です。音楽は、教育出版、教育芸術社の2社のみが発行されており、この2社ともが選定されております。

青色の付箋がついたページをお開きください。紙面構成についてでございます。1年生のものになります。(教育出版1年18ページ, 教育芸術社1年18ページ)

2社とも、左に縦書きの題材名があり、その右側には大きな文字で「学習のめあて」が示されております。教育出版では、右上に、主体的・協働的に見通しをもって学習を深める力を育むための「学びナビ」(方位磁針)が示されております。次に、教育芸術社につきましては、右下に、実際の「持ち方と打ち方」が分かりやすく示されております。

続きまして、6年生教科書の緑色の付箋のページをお開きください。「歌唱：われは海の子」についてでございます。(教育出版6年22ページ, 教育芸術社6年44ページ)

まずは、教育出版をご覧くださいませと、見開き2ページにわたる写真の使い方が効果的で、想像力豊かに学習を展開できるような工夫がなされております。次に、教育芸術社をご覧くださいませと、桂浜の写真が使われておりますが、これまでと同様の紙面構成で学習を進める流れとなっております。

なお、現行は教育出版です。説明は以上です。

#### 森田委員

私は教育出版の1年生の教科書を見てみましたが、楽譜がそんなに複雑ではないので楽しんでもらえると思えました。教育芸術社の1年生の教科書は、ピアノを習っていないとすぐに理解するのは難しいのと楽譜が少し小さいので、音楽が好きで、これはどういう音階なのかという興味を持ってもらいやすいのは、この青い付箋のページで比べると教育出版だと思えました。もちろん、教育芸術社はグーチョキパーでかわいく仕上がっていますが、楽譜の見せ方において、私が1年生なら読めなかったと思えます。

#### 松下教育長

同じように、リズムや手拍子、手合わせ、それからグーチョキパーというのは、活動的なことは同じようになっていますが、この楽譜の場合は対比することができそうですね。トントンというのと、ジャンケンポンだと対比するのが難しくなるのかなと思います。

#### 森田委員

先生もこの楽譜見ないよと言ってやるのかもしれないね。

#### 谷委員

4年生の教育芸術社の10ページと、教育出版の10ページに「さくらさくら」の教材が2社ともに載っています。何が違うかということ、歌詞が写真に重なってはいけないと私は思っていますが、教育芸術社では歌詞がそのまま桜の写真と重なっていて分かりにくくなっています。それに対して、教育出版は、歌詞が右側にはっきりと載っています。子供たちには、土手の桜の風景を日本の桜としてイメージさせながら見せたいので、教育出版が教材としてすごく適切だと思えました。桂浜も綺麗に載っていますし、6年生教科書には辻井伸行さんが最初に出てくるという点も良いと思えました。

#### 西森委員

教育出版は、全体的に楽しいという印象を受けました。4年生の20・21ページには、見開きでサウンドオブミュージックを取り上げていて、こういう音楽がここから出てきているというようなことがシーンごとに書かれています。それから、5年生は、表ページには有名な野村萬齋さんが載っています。役者さんのイメージを持っている子供たちが多いと思いますが、本業はこういうことをされていると改めて知ることができます。いろいろな角度から音楽の楽しさみたいなのを教えてもらえるという印象も受けます。ちなみに、先ほどの4年生の教科書を開いたらバレエの話が出てきていて、楽譜を見て楽器を演奏するということとは違う、見る楽しさのようなものを伝えてくれているので、楽器ができない子にとっては時々苦痛だったりすることが緩和されて良いなと思えました。

## 谷委員

5年生の教育芸術社は12ページ、教育出版は10ページのこの鯉のぼりについてどう思いますか。教育芸術社は絵でしょうか。イメージとして何か違うというか、子供たちにこれを見せて歌ってもらうことを思うと、教育芸術社もすごく素敵な教科書ですが、やはり教育出版が自然で良いという気がしました。

## 西森委員

谷先生がおっしゃった教育出版の12ページは、鯉のぼり伝説のこともきちんと書かれているので、勉強になります。それから、これはどこの写真でしょうか。四万十川でもやっていますが、光景的に四万十川ではなさそうですね。写真がとても綺麗で感動しました。

## 松下教育長

よろしいでしょうか。

それでは、音楽につきましては、どちらも良いところがありましたが、皆様のご意見の中で教育出版株式会社の内容が優れているというご意見が多かったように思います。

音楽につきましては、教育出版株式会社で決定してよろしいでしょうか。

## 委員一同

————— 【異議なし】 —————

## 松下教育長

続きまして、図画工作に移りたいと思います。事務局の説明をお願いします。

## 学校教育課指導主事

続いて、図画工作です。図画工作は、開隆堂出版、日本文教出版の2社のみが発行しており、この2社ともが選定されております。

青色の付箋がついたページをお開きください。1・2年生上になります。「立体」についてでございます。(開隆堂出版1・2年上36ページ、日本文教出版1・2年上34ページ)

まずは、開隆堂出版をご覧くださいますと、左上に「学習のめあて」が示されており、右下には学習の振り返りをするコーナーを設けております。次に、日本文教出版をご覧くださいますと、どの題材でも同じ位置に「学習のめあて」「学びの過程」が示され、さらに、気をつけること、片付け、振り返りも丁寧に示されており、児童が主体的に学習を進められるような紙面構成となっております。

次に、黄色の付箋のページをお開きください。5・6年生の上になります。こちらは、「材料・用具の取扱い」についてでございます。(開隆堂出版5・6年上58ページ、日本文教出版5・6年上60ページ)

まずは開隆堂出版をご覧くださいますと、巻末において、基礎的・基本的な資料、各学年での材料・用具の使い方と、既習事項の材料・用具等の写真を使って示されております。日本文教出版をご覧くださいますと、同じく巻末において、材料・用具の取扱いや、それを習得するための技法について丁寧に示しており、特に用具の安全な扱いについて、具体的に記述されております。

なお、現行は日本文教出版です。説明は以上です。

## 森田委員

黄色の付箋のページに関して、安全を重視されているということでしたが、2社を比較すると、日本文教出版は、安全を講じた上での少し専門的な形という印象を受けました。ペンチの使い方や、こういう時は気をつけようというポイントがあるので読みやすいと思いました。

開隆堂出版は、60ページ以降に、もちろんペンチの使い方は載っていますが、安全についてここは気をつけようという書き込みは、日本文教出版が多いと思いました。危ないところに気をつけなきゃいけないということは、作業をする上で大事なことだと思います。

## 西森委員

2社を見比べてみて、どちらもそれぞれにいいところがあるような感じもして、非常に悩んでいます。開隆堂出版は、タイトルが「できたらいいな」「力を合わせて」「つながる思い」というように、それぞれタイトルが付いていて、面白いと思います。例えば、3、4年生の下だけに限って言えば、作ったり協力し合ったりということで、作品を見せるというよりは、みんなで作業しているところを見せているというイメージがあります。フォーカスが作業している人に合っているという印象を受けました。一方で、日本文教出版は、作品にスポットが当たっていると思いました。なので、作品が掲載されている教科書が日本文教出版で、みんなでいろいろな作業をしているところを載せている教科書が開隆堂出版と感じました。3、4年生という学年で、みんなで協力し合うことを主眼に出していく教科書の在り方も有りだと思ふ反面、やはり図画工作なので、協力というよりは作品が主眼だとも思いました。作品の見せ方という点で、日本文教出版が若干力が入っていると感じました。開隆堂出版は、作業している子供の写真が多い気がして、日本文教出版は、でき上がったものを見せているという印象なので、子供たちがお手本にしやすいのは、日本文教出版だと感じました。作業する姿を教科書で載せることはないような気がします。手元や技術はそうですが、みんなで助け合っている姿はこの科目で見せなくてもいいような気がします。

## 谷委員

6年生、下の48・49ページについてですが、だんだん卒業に近づいて、これまで学んできたことを広げていくというときに、何らかのテーマを持ちます。日本文教出版は「平和を願って」を一つのテーマにして、原爆ドームがあり、ゲルニカがあり、そして何故ゲルニカの絵を描いたのかという説明があり、しかも、原爆ドームの絵が3,000枚あることが書かれてあって、そこに長崎の国際子ども平和壁画展も紹介しながら、平和というものについて考える。単に絵を書くということだけではなくて、こういう絵に対する見方を高知市の子供たちに学ばせたいと思うので、日本文教出版がいいような気がします。

## 松下教育長

西森委員が先ほどおっしゃった、作品を見せるということが、5・6年生下巻にも同じことが言える気がします。

よろしいでしょうか。

それでは、図画工作につきましては、どちらも良いところがありましたが、皆様のご意見の中で、日本文教出版株式会社の内容が優れているというご意見が多かったように思います。

図画工作につきましては、日本文教出版株式会社で決定してよろしいでしょうか。

## 委員一同

————— 【異議なし】 —————

## 松下教育長

続きまして、家庭に移りたいと思います。事務局の説明をお願いします。

## 学校教育課指導主事

続いて、家庭です。東京書籍、開隆堂出版の2社のみが発行しており、この2社ともが選定されております。児童はこの教科書1冊を2年間使用いたします。

黄色の付箋のページをお開きください。「調理実習」の導入についてでございます。(東京書籍21ページ、開隆堂出版10ページ)

まずは、東京書籍をご覧くださいと、「いつも確かめよう」の欄において、調理の手順における基礎的・基本的な知識や、技能の大切なポイントを分かりやすく丁寧にまとめて提示しております。次に、開隆堂出版についてでございますが、これから行う調理実習の基本的な流れや、必要な器具がイラストや写真で分かりやすく掲載されており、実際の調理実習に活かしやすくなっております。また、巻末の142ページには、学習中の不慮の事故を防ぐため、安全・衛生・防災に対する配慮が示されており、子供たちが確認できる紙面構成となっております。



続きまして、緑色の付箋のページをお開きください。「まとめ・ふりかえり」についてでございます。(東京書籍 79・135 ページ、開隆堂出版 79・136 ページ)

東京書籍につきましては、5年生、6年生それぞれの学年末に、学習の振り返りを設け、まとめを行っております。開隆堂出版につきましては、79ページの5年生の学年末では、5年生の学習と環境との関わりについて、いくつか事例をあげながら取り組むことができるよう、問題解決型学習が設定されており、また、136ページの6年生の学年末には、2年間の学習を振り返り、さらに、中学校(技術家庭の家庭分野)への学習につなげるような工夫がなされております。

なお、現行は開隆堂出版です。説明は以上です。

#### 谷委員

黄色の付箋の調理のページの中に、昔からの定番の青菜のお浸しが載っています。東京書籍は22ページ、開隆堂出版が10ページにあります。2社を比較すると、東京書籍が少し分かりにくい印象を受けました。開隆堂出版は、スタートからゴールまでが分かりやすいです。5年生にとって初めての調理なので、やはり分かりやすいものでないといけません。また、家庭科の先生も、特別に家庭科を研究している先生ばかりではないので、子供たちと一緒にパッと見て分かるようなものがないのではないかと思います。

#### 松下教育長

緑の付箋のページで言うと、先ほど説明もありましたが、どちらも5年生のまとめ、6年生から中学校へ向けてという構成としては同じですが、比べてみると、東京書籍は1ページで、開隆堂出版は見開き2ページになっています。どちらがいいとか悪いとかではなくて、こういう方針なんですよね。5年生から6年生へ、6年生から中学1年生へという次の学年へのつながりを意識していると感じました。

#### 谷委員

東京書籍の56・57ページ、開隆堂出版の30・31ページについて、5年生6年生の整理整頓はすごく大事です。指導するのがなかなか難しいですが、整理整頓の仕方を、小学校の家庭科で学んでいけば、中学校に入ってから良いと思いますので徹底させたいですね。開隆堂出版の方が見て分かりやすいですし、整理したくなると思いますので、良いと思います。

必要なものと必要でないものの仕分けのページも、見て分かりやすいです。

#### 松下教育長

散らかった状態からこういうふうになるというところですね。

#### 谷委員

はい。

#### 松下教育長

東京書籍は、散らかった状態から箱を使って綺麗になるという載せ方で間に1つ入っています。

開隆堂出版は、散らかった状態から綺麗になるためには、必要なものと必要でないもの、よく使うものとあまり使わないもので分ける、というやり方を教えている。それが一目で分かります。

#### 谷委員

そうです。

#### 野並委員

ボタンの付け方についてですが、開隆堂出版はイラストを使っていることが多く、東京書籍は写真で説明されています。写真だと見えにくかったりするところが、イラストの場合は角度を変えていたりと分かりやすくできているので、後で実践しようとするときに分かりやすいかなと思います。この歳になっても、まだボタンを付けることができませんが、これを見て勉強しようと思いました。

#### 松下教育長

それでは、家庭につきましては、2社のうちどちらも良いところがありましたが、皆様のご意見の中で、開隆堂出版株式会社の内容が優れているというご意見が多かったように思います。

家庭につきましては、開隆堂出版株式会社で決定してよろしいでしょうか。

委員一同

————— 【異議なし】 —————

松下教育長

続きまして、保健に移ります。事務局の説明をお願いします。

学校教育課指導主事

続いて、保健です。保健は、6社のうち、東京書籍、文教社、学研教育みらいの3社が選定されております。

青色の付箋がついたページをお開きください。「1日の生活」についてでございます。(東京書籍3・4年13ページ、文教社3・4年6ページ、学研教育みらい3・4年12ページ)

まず、東京書籍をご覧くださいますと、各項目の冒頭に、その授業の学習課題を明示し、学習の流れと活動内容がひと目で分かるようになっております。次に、文教社をご覧くださいますと、導入に、学習内容をイメージしやすい写真やイラスト付きのチェック項目を設けていることが多く、児童の学習への意欲付けと、一人一人に、主体性を持って学習に臨むような工夫がなされております。学研教育みらいにつきましては、統一感のある紙面構成で、全体の流れを見通すことができ、学習を進めやすい構成となっております。

次に、黄色の付箋のページをお開きください。5・6年生になります。「けがの手当」についてでございます。(東京書籍5・6年39ページ、文教社5・6年38ページ、学研教育みらい5・6年40ページ)

3社とも、様々なけがの種類や程度による処置の手順等を、イラストを交え、分かりやすく提示されており、また、「AED」や「熱中症」についての内容にも触れております。特に文教社は、42ページからになりますが、発展的内容として、災害時の自助、共助、公助の必要性や「熱中症」に係る説明や対策などの内容が、非常に充実しております。

なお、現行は文教社です。説明は以上です。

谷委員

防災は、これからますます重要になってくるので、「自助、共助、公助、全ての連携の必要性」とありますが、この通りです。特に保健でやっておきたいことだと思います。

森田委員

黄色の付箋の「けがの手当」について、文教社では大事なことは、救命、悪化防止、苦痛の軽減だと、38から41ページには、簡単な手当の実習について具体的に書かれています。東京書籍も、40ページ以降に手を洗っている絵があります。迷いますが、野並先生は監修されるとしたらどちらですか。

野並委員

けがの後は、安静にして冷やして固定して挙上するRICEという方法がありますが、そのことについて、文教社が一番分かりやすく書かれているのではないかと思います。

松下教育長

けがの手当について今、野並先生がおっしゃったことが、文教社の38ページに分かりやすく、必要なことが必要なように書かれています。あとは、人がより良く生きるために、保健という分野で自助、共助、公助という考え方を身に付けていくということですね。

よろしいでしょうか。

それでは、保健につきましてもいろいろ意見がございましたが、株式会社文教社の内容が優れているというご意見が多かったように思います。

保健につきましては、株式会社文教社で決定してよろしいでしょうか。

委員一同

————— 【異議なし】 —————

## 松下教育長

続きまして、外国語に移ります。事務局の説明をお願いします。

## 学校教育課指導主事

続いて、外国語です。その外国語は、7社のうち、東京書籍、三省堂、光村図書出版の3社が選定されております。

まず、青色の付箋がついたページをお開きください。外国語科では、「書く活動」がございます。(東京書籍6年7ページ、三省堂6年15ページ、光村図書出版6年17ページ)

そこで、まずは三省堂をご覧ください。子供たちがアルファベットを書くための4本線がございます。こちらは、線と線の間がほぼ均等な一般的なものでございますが、東京書籍、光村図書出版をご覧くださいますと、上から2本目と3本目との幅が広がっていることがお分かりいただけると思います。これは、小文字にはこの線の間に入るものや曲線のあるものが多いことから、全ての児童に書きやすい文字となるよう、特別支援教育の観点から取り入れられているものです。

次に、黄色の付箋のページをお開きください。5年生です。「誕生日」を扱った単元のまとめの活動についてでございます。(東京書籍5年18ページ、三省堂5年12ページ、光村図書出版5年26ページ)

東京書籍をご覧くださいますと、これまで学習した内容をいかして、友達に誕生日等を聞き、それをもとにプレゼントカードを作成し、贈り合う流れになっております。その際の活動内容が3ステップでまとめられているため、子供たちにとっては学びやすく、指導者にとっても教えやすい構成となっております。三省堂をご覧くださいますと、既習内容を生かして自己紹介カードを作成し、複数の友達とコミュニケーションを図る構成となっております。光村図書出版につきましては、既習内容をいかして友達と誕生日等を伝え合いながらカードを作成し、クラスの誕生日カレンダーとしてまとめる構成となっております。

なお、現行は東京書籍です。説明は以上です。

## 西森委員

東京書籍は、他社の教科書に比べて書く欄が多いという印象です。ページをめくっていくと、見開きのどこかには必ず書く欄がある印象でして、光村図書出版は書く欄が少ないというか、各ページに書く欄がある訳ではないというか、線を引いたりするのはありますが、三省堂の書く欄が東京書籍に比べると少ないように思います。小学生の段階でどれくらい書かないといけないというのがあると思いますが、抵抗感がないうちに、4技能のうちの一つである「書く」という作業に慣れる形を作っておくことも大事だと思うので、少なくとも書くバランスにおいては東京書籍が一步二歩リードしているのではないかなという印象を受けました。「こういうことを喋ってみたい」とか日本語で書いてもいいですね。なので、整理して書いていいということではないと、なかなかとっついていけないかなと感じたところです。

## 松下教育長

どこまで書けないといけないのかというのはまた難しい話ですが、書くことに抵抗感を持たせないっていうことは、やはり学力技術を身につける上で大事なことでしょうね。

## 西森委員

実際には、先生が「これを書いてみましょう」と板書したものを英語ノートに書くという作業になるとと思いますが、東京書籍は教科書の中に書く仕掛けが入っているので、そう思ったりもしました。

## 谷委員

書くという作業は、頭に呼び出して、身に付く面があり、今、自分が買った本の中に感想を書くということが大きく取り上げられています。特に、初めての英語となると、書いてみたり話してみたり、いろいろしてみると良いと思います。それから、見ていてあまり難しい内容ではないですよ。あなたの思うことや欲しいものは何ですかといった質問に対して、自分自身の答えをいろんな

視点から考えることができるので、どんどん書いていくと良いと思います。東京書籍は、書くスペースが広いので書きやすく、すごく良いですね。

#### 野並委員

東京書籍は、字数が詰まっていないという印象です。今おっしゃったように、書くところがたくさんあるから、それくらいスペースがあるんだろうなと思います。各ページに記入する試みがあるということは、すごく良いことだと思いました。

#### 谷委員

能動的になりますよね。

#### 西森委員

英語で書かなくていいというのが良いですよ。日本語で書く欄は相当ありそうですもんね。

#### 松下教育長

よろしいでしょうか。

外国語につきましても、ご意見をたくさんいただきましたが、東京書籍株式会社の内容が優れているというご意見が多かったように思います。

外国語につきましては、東京書籍株式会社で決定してよろしいでしょうか。

#### 委員一同

————— 【異議なし】 —————

#### 松下教育長

それでは、道徳に移ります。事務局の説明をお願いします。

#### 学校教育課指導主事

続いて、道徳です。6社のうち、日本文教出版、光文書院、学研教育みらいの3社が選定されております。

青色の付箋のページをお開きください。2年生です。「道徳の学習におけるオリエンテーション」についてでございます。(東京書籍2年4ページ、光文書院2年4ページ、学研教育みらい2年8ページ)

まず、日本文教出版につきましては、学びに見通しを持てるよう道徳科の学び方として、①気付く②考える・深める③見つめる・生かすが示されており、子供たちが問題意識を持って考え、深める学習ができる構成となっております。光文書院につきましては、道徳の学習を、何をどのように進めるのか、分かりやすく示しております。学研教育みらいにつきましては、主体的に学習に取り組む態度を育てるため、「道徳の学習が始まるよ」を設け、学習への徹底をしております。

次に黄色の付箋のページをお開きください。4年生です。読み物資料「雨のバス停留所で」でございます。(日本文教出版4年48ページ、光文書院4年108ページ、学研教育みらい4年40ページ)

まず、日本文教出版につきましては、本文の前に毎回、キャラクターの導入の発問例や中心発問に係る場面の様子、そして中心人物について示されており、さらに本文の後、キャラクターが中心発問例や補助発問例を示す紙面構成となっております。光文書院をご覧くださいと、これまでの読み物教材とは異なった形式の教材提示による工夫が見られます。次に学研教育みらいにつきましては、教材名の下に毎回「キーワード」が示されており、本文の後、中心発問例や補助発問例を示す紙面構成となっております。

なお、現行は日本文教出版です。説明は以上です。

#### 谷委員

今説明のあった「雨のバス停留所で」を見ると、学研教育みらいのイラストは、暗い感じがします。お母さんの顔とか、確かに注意しようとしていることは分かりますが、子供たちに受け入れられるのかなという感じが少しします。それから、光文書院については、わざわざ漫画にしないといけないのかということも思いました。漫画になると、字が少なくなって、漫画の人の顔がクローズ

アップされるので、やはり想像力という点では、日本文教出版が一番いいのかなと思いました。例えば、止めようとするお母さんの描写がありますが、そのお母さんの顔が見えないところが逆に良いと思いました。

#### 松下教育長

同じ読み物で比べた場合に、ということですね。

#### 森田委員

道徳の3冊とも、青い付箋がついたページを拝見しました。日本文教出版は、イラストよりも子供たちの顔がそのまま写真として載っているので、クラスで話してロールプレイすることを考えると、写真があった方がよりリアルに考えられるのではないかと思いますので、青い付箋のページに関しては、日本文教出版が良いと思いました。

もう一つは、前にも申し上げたと思いますが、付箋がついていないページについて、「お母さんのせいきゅう書」という教材が3社ともに載っています。日本文教出版は3年生の102ページ、学研教育みらいは4年生の14ページ、光文書院は4年生の28ページに載っています。内容としては、子供がおつかいや掃除などのお手伝いの報酬として、400円をお母さんに請求します。それに対して、お母さんは「親切にしてあげた0円」「病気の看病をした0円」と書いた紙を「合計0円よ」と言って子供に渡します。それを受け取った子供が「僕はなんてことをしてしまったんだ」となる、という話を児童生徒に考えてもらうことになると思います。そういったことを紙に書いたお母さん自体が、家事労働を無償のものとして捉えているということになります。これが今の日本社会で当たり前のように提示されることで、子供たちが無意識に「そうだよね。家事って0円だもんね。」とってしまうことにつながります。3社ともに載っているのでどれがいいということではありませんが、この教材を授業で扱うときに、問わなくてはいけないと思います。教える時に、「どうして0円なんだろうね」というような先生からのアプローチが要るのではないかと思います。

例えば、光文書院に載っているお母さんは日本人ではなさそうです。もし、外国でこういう話をすると、日本特有の話なので、国際レベルで言うと物語自体がどうなんだということになりかねないと思います。しかも、学研教育みらいでは、この「お母さんのせいきゅう書」の数ページ後の21ページに、津田梅子さんの話が出ています。津田梅子さんは、女性のこういった0円という状況に対して、これでいいのかということで社会貢献された方なので、同じところに載っているところに疑問を感じました。

もちろん、道徳ですので、これについてどう思うかというところにアプローチをしていかななくてはいけないと思いますが、授業する際の先生たちの考え方というか、この教材についてはどういう背景で教えていただけるのかっていうのを注意してもらえたらいいなと思いました。話がずれてしまいましたが以上です。

#### 谷委員

大事なことだと思います。

#### 森田委員

青い付箋のページでいうと、日本文教出版は写真が多いというところに賛成します。

#### 野並委員

日本文教出版の道徳ノートは、どういう使い方をしていきますか。授業の後で、それぞれ記入してもらい使い方になりますか。

#### 松下教育長

そういうことですね。教科書と一緒にセットになっているワークシートです。

#### 野並委員

授業の後にそれぞれの感想などを書き込んでいくというのは、見直しという意味では意味があると思います。

**松下教育長**

よろしいでしょうか。

それでは、道徳につきまして、3社とも良いところはありませんでしたが、皆様のご意見の中で、日本文教出版株式会社の内容が優れているというご意見が多かったように思います。

道徳につきましては、日本文教出版株式会社で決定してよろしいでしょうか。

**委員一同**

————— 【異議なし】 —————

**松下教育長**

以上で、一通り採択が終わりましたので、最後に確認させていただきます。

まず国語につきましては、東京書籍株式会社です。書写は、東京書籍株式会社。社会は、教育出版株式会社。地図は、株式会社帝国書院。算数は、東京書籍株式会社。理科は、大日本図書株式会社。生活は、東京書籍株式会社。音楽は、教育出版株式会社。図画工作は、日本文教出版株式会社。家庭は、開隆堂出版株式会社。保健は、株式会社文教社。外国語は、東京書籍株式会社。道徳は、日本文教出版株式会社。

以上で間違いありませんでしょうか。

**委員一同**

————— 【異議なし】 —————

**松下教育長**

それでは、この内容で決定をいたしましたので、よろしくお願いたします。

以上で、本日の議事日程は全て終了いたしました。これで教育委員会を閉会いたします。

閉会 午後5時45分

署名

教育長 \_\_\_\_\_

5番委員 \_\_\_\_\_